

いぶり文化遺産 アイヌ文化

アイヌ民族は日本列島北部周辺、とりわけ北海道の先住民族です。

独自言語のアイヌ語をはじめ、万物に魂が宿るとされている宗教観、独特の文様による刺繍、木彫り等の工芸など、固有の文化を発展させてきました。

祭りや家庭での行事などに踊られる「アイヌ古式舞踊」は、

国の重要無形民俗文化財に指定され、さらにユネスコ無形文化遺産*にも登録されています。

※ユネスコ無形文化遺産…有形の文化財の保護と継承を目的とする世界遺産に対し、

無形文化遺産は、民俗文化財、フォークロア、口承伝統などの無形のものを対象としています。



撮影協力:公益財団法人 アイヌ民族文化財団

暮らしの中から生まれたアイヌ古式舞踊

アイヌ民族は儀式のとき、集いのとき、仕事のときなどに歌い踊りました。踊りは、リムセ、ウポボ、ホリッパなどと呼ばれる、大きな輪になって踊るもの、神々への祈りを表したものの、豊漁を祈願するもの、動物の動きを表したものなど多彩なものがあり、その場にいる人たちの歌と手拍子で踊られます。アイヌ民族にとって踊りとは、自分たちと神々が一緒になって楽しむものでした。現在では18の保護団体が国の「重要無形民俗文化財」に登録され、アイヌの主要な祭りなどで踊られているほか、かつて個人が歌っていたものが伝承され、共有の歌として歌い継がれています。

ウポポイ(民族共生象徴空間)に行ってみよう

2020年7月12日、白老町ポロ湖畔に誕生した「ウポポイ(民族共生象徴空間)」は、先住民族であるアイヌの文化の復興と発展に関するナショナルセンターです。豊かな自然に囲まれた敷地内は、アイヌ文化が息づく憩いの場でもあります。アイヌを主題とした日本初の国立博物館「国立アイヌ民族博物館」や、体験型フィールドミュージアム「国立民族共生公園」などがあり、「体験交流ホール」では、アイヌ古式舞踊や楽器演奏など、アイヌの伝統芸能を体感することができます。

情報リンク ウポポイポータル

<https://ainu-upopoy.jp/>

おすすめスポット ウポポイ(民族共生象徴空間)

住 白老町若草町2丁目3

電 0144-82-3914

時 4/1~10/31…9:00~18:00(平日)、9:00~20:00(土日祝)
※7/21~8/31…9:00~20:00
11/1~3/31…9:00~17:00

車でのアクセス/
高速道路利用

●札幌北ICから…約1時間5分
●新千歳空港ICから…約40分

休 月曜日(祝日または休日の場合は翌日以降の平日)
及び年末年始(12月29日~1月3日)



いぶり歴史遺産

縄文遺跡群

約1万年にわたって続いた縄文文化は、優れた技術や豊かな精神世界を持ち、

高度に発達・成熟した世界的にも貴重な先史時代の文化です。

胆振にも、数多くの縄文遺跡があり、その中の北黄金貝塚（伊達市）、

入江貝塚・高砂貝塚（洞爺湖町）を含めた「北海道・北東北の縄文遺跡群*」の

世界遺産登録を目指しています。

※北海道・北東北の縄文遺跡群…北海道6、青森県8、岩手県1、秋田県2の計17遺跡で構成。

遺跡全体の保存状態が良好な「北黄金貝塚」

伊達市北黄金には、縄文時代前期(約7,000年前～約5,500年前)の縄文貝塚遺跡「北黄金貝塚」があります。総面積は30万㎡、うち約9万㎡が国史跡に指定されています。貝塚からは貝や魚の骨のほかにも人骨も発掘されており、出土した人骨は保存状態がよく、北海道の古人骨研究の基準資料になっています。貝塚周辺は公園化されており、出土品や貝塚の断面、墓地などの復元模型などを展示する「北黄金貝塚情報センター」では、勾玉づくりや模擬発掘などが体験できます。

漁労文化の特徴を表す「入江貝塚・高砂貝塚」

洞爺湖町の台地の上にある「入江貝塚」は、縄文時代前期(約5,000年前)から後期(約3,000年前)の貝塚で、1663年の有珠山噴火の火山灰に埋もれて残っていました。貝塚からは貝や動物の骨のほか、クジラなどの海獣類の骨も出土しています。「入江・高砂貝塚館」を挟んで入江貝塚の反対側にある「高砂貝塚」では、縄文時代後期(約3,500年前)に作られた貝塚と、縄文時代晩期(約2,500年前)に作られた墓28基が発見され、墓の周囲ではストーンサークルも見つかっています。

情報リンク 北海道・北東北の縄文遺跡群

<https://jomon-japan.jp/>

おすすめスポット 北黄金貝塚情報センター

住 伊達市北黄金町75

電 0142-24-2122

時 9:00～17:00

休 12月～3月

車でのアクセス／
高速道路利用 ●札幌北ICから……約1時間35分
●新千歳空港ICから……約1時間5分

おすすめスポット 入江・高砂貝塚館

住 洞爺湖町高砂町44

電 0142-76-5802

時 9:00～17:00

休 月曜日、祝日の翌日、12月～3月

車でのアクセス／
高速道路利用 ●札幌北ICから……約1時間50分
●新千歳空港ICから……約1時間20分

いぶり古代遺産 むかわ竜

むかわ町穂別の約7200万年前(白亜紀後期)の海の地層から発見された恐竜化石「むかわ竜」。

全長8mの骨格のうち、8割以上という高い割合で骨が残った大型恐竜の全身骨格化石の発見は国内初であり、海の地層から発見された恐竜の全身骨格化石も国内初です。

その後、ハドロサウルス類の新属新種と認定され、「カムイサウルス・ジャポニクス*」と命名されました。

※カムイサウルス・ジャポニクス…アイヌ語で「神」を意味するカムイ、ラテン語で「トカゲ・竜」を意味するサウルス、ラテン語で「日本」を意味するジャポニクスからなる学名。

歴史 史を変えた日本最大の恐竜全身骨格

むかわ竜が発掘されたむかわ町穂別は、太古は海だった場所です。恐竜は陸の生き物ですが、むかわ竜は海に流されて海底に沈み、そこで埋まって化石になったと考えられています。見つかった化石を並べるだけでおおよその姿が分かる全身の骨格化石は、まさに日本の恐竜研究の歴史に刻まれる大発見でした。口の先からしっぽの先まで全長約8m、地面から背中の上まで約3.8m、体重は約4〜5.3トンと推定されるむかわ竜は、現在のところ日本最大の恐竜全身骨格化石です。

世界的な恐竜研究の進歩への期待

2003年、町内の男性が沢の崖で発見した尾椎骨が首長竜のものであると判断されました。2011年に、首長竜ではなく恐竜の化石であることが判明。2013年から発掘が開始された全身骨格化石は、2016年にむかわ竜と名付けられ、その後の研究で新属新種の恐竜であることがわかりました。2019年9月6日に、学名をカムイサウルス・ジャポニクスと命名。恐竜化石の発掘は、アジアでは内陸のモンゴルが有名ですが、日本を含む当時のアジア沿岸部で発掘が進めば、恐竜研究の新たなページが開かれることとなるでしょう。

情報リンク むかわ町 恐竜ワールド 情報リンク 穂別博物館公式サイト
<https://mukawaryu.com/> <http://www.town.mukawa.lg.jp/1908.htm>

おすすめスポット むかわ町穂別博物館

住 むかわ町穂別80-6
電 0145-45-3141
時 9:30~17:00(最終入館16:30)
休 月曜・祝日の翌日・年末年始



※むかわ竜の全身骨格復元模型は、現在、一般公開しておりませんが、むかわ町穂別博物館では、むかわ竜の実物化石の一部を展示しております。

車でのアクセス / 高速道路利用 ●札幌北ICから……約1時間40分
●新千歳空港ICから……約1時間20分